

分野	教育	施策	文化・スポーツ	
分野計画名称	文化振興計画		行政経営戦略 参照ページ	P91

施策の展開（大項目）	4 縦（世代間）・横（地域間）のネットワークの形成					
KPI (指標)	「直近1年間で文化・芸術の鑑賞や活動をした」と回答した市民の割合					
	推移の方向性	基準値	令和04年度 結果	令和05年度 結果	令和06年度 結果	目標値 (令和7年度)
	増加	22.7%(令和2年度)	27.5%	38.6%	32.3%	25.0%
KPI (指標)	文化スポーツ課所管団体の活動において、直近1年間で研修会等を実施した回数【★】					
	推移の方向性	基準値	令和04年度 結果	令和05年度 結果	令和06年度 結果	目標値 (令和7年度)
	増加	20回	22回	29回	21回	25回
KPI (指標)	「週1回以上運動・スポーツをしている」と回答した市民の割合					
	推移の方向性	基準値	令和04年度 結果	令和05年度 結果	令和06年度 結果	目標値 (令和7年度)
	増加	39.8%(令和2年度)	30.9%	41.0%	42.1%	50.0%
KPI (指標)	「直近1年間で文化・スポーツ活動をした」と回答した児童生徒の割合					
	推移の方向性	基準値	令和04年度 結果	令和05年度 結果	令和06年度 結果	目標値 (令和7年度)
	増加	84.0%(令和2年度)	92.9%	92.5%	94.74%	90.0%

中項目	1 縦（世代間）のネットワークの形成		分野計画参照ページ	P25
関連する主な事業	令和06年度 の取組実績	分析・考察		
① 文化振興事業 文化スポーツ課	・大阪人間科学大学と連携し、学生によるイベントガイドのデザイン・構成を行った。	・カラフルな色彩や版画をモチーフとしたイラストなど、大学生の若く独特な感性でデザインを手掛けたことで、日本文化への敬意を表しつつ、老若男女問わず興味を惹くイベントガイドを作成することができた。		
② 老人福祉センター事業 高齢介護課	■老人福祉センター ・295日開館し、入館者は延べ7,922人（前年度比+350人）であった。 ・老人福祉センター事業として、「高齢者でも初心者向けの英会話を身につけたい」というニーズに対応したシニア英会話教室や、多世代交流という趣旨で	■老人福祉センター		

	映画鑑賞会等を実施した。 ■いきいきカレッジ ・せつつ桜苑及びふれあいの里でいきいきカレッジにおいて、一般教養科目及び専門科目等の講義を実施し、計34日開講した。受講者は以下のとおり。 ○せつつ桜苑：健康83人、陶芸71人、音楽129人、美術129人、スマホ基礎158人、スマホ養成92人 - 延べ662人（前年度比-109人）うち、新規受講者289人（前年度比-119人） ○ふれあいの里：ものづくり61人、体操200人、パソコンスマホ134人 - 延べ395人（前年度比+26人）うち、新規受講者85人（前年度比-27人） ・受講要領を2会場と市役所だけでなく、公民館やコミュニティプラザ等の公共施設にも配架、市ホームページ、つながりネットに掲載し、受講要領を閲覧及びダウンロード可能としている。	■老人福祉センター ・利用者の高齢化が進んでおり、定期（毎日）利用者が減少傾向にある。 ・老人福祉センターの新規事業として、利用者のニーズに対応した新たな講座や、多世代交流を目的とした講座やイベントを実施した。効果について検証し、利用者の増加につながるよう内容の充実を検討する。 ■いきいきカレッジ ・受講者の年齢階層は75歳以上が全体の半数以上を占めており、60歳代の受講者は1割以下となっている。受講者募集の広報について、LINE配信等のデジタル媒体を活用し、60歳代の目に触れるよう工夫し受講につなげる。
③ スポーツ推進委員活動事業 文化スポーツ課	・「年齢や体力にかかわらず誰もが楽しめるスポーツ」として新しく考案されたニュースポーツ（ボッチャ、スティックリング等）の体験会・大会を実施し、世代を問わず、各年代が一緒になって楽しむことができる機会を提供することができ、子どもと高齢者が同じスポーツ・同じルールで競技を楽しむ姿が見られた。	・高齢者の参加が多くみられるが、若年層（～40代）の事業参加割合が少ないため、若年層にニュースポーツの事業開催を周知する機会の創出を行っていく必要がある。
④ スポーツ振興事業 文化スポーツ課	・9～12月に全11地区の内、8地区が各小学校を会場として開催し、延べ参加者数は7,333人であった。（前年度比+3,063人）	・各地区への開催の可否の調査の際に「開催しない」または「検討中」とした場合の開催の支障となっている課題等があれば記入いただくよう様式を変更し、課題の把握に努めている。多くは、高齢化や実行委員のなり手がいないなどの理由である。理由について確認し、他地区の事例や市の貸出備品を含めた競技の紹介や助言などを行い、全地区での開催を目指して支援していく。

中項目	2 横（地域間）のネットワークの形成		分野計画参照ページ	P26
関連する主な事業	令和06年度 の取組実績	分析・考察		
① 文化振興事業 文化スポーツ課	・8月に尼崎市で開催した摂津圏文化行政連絡協議会において、関係自治体からの議案をもとに、情報交換を行った。（11自治体が出席）	・今後も相互の自治体が抱える課題や情報を共有し、事例を参考にしながら、本市の文化施策の向上に努める。例えば、現在実施している、こども展覧会事業について、他市における開催の状況（運営方法、対象年齢、展示方法など）を知ることで、本市における事業の充実や改善につなげるものである。		
② 国際交流事業 自治振興課	・摂津市国際交流の各種事業や講座の支援を実施し、参加者等は以下のとおりであった。 ■日本語支援ボランティア養成講座80人（前年度-41人） ■国際理解講座54人（前年度比-30人） ■JICA講演会47人（前年度比+29人）	・各種講座や講演会は外国人市民の有効な支援策であることから継続して実施していく必要がある。 ・国際理解講座は、海外経験の豊富な方の生の声を聞くことができ、異文化を理解できる貴重な場であることから引き続き実施していく。		
③ 都市交流事業 自治振興課	・市外宿泊施設の利用について、8市町と提携し、延べ117人（前年度比-22人）の利用があった。	・事業の見直しにより、令和7年度から廃止。		